
All to the dark

グッピー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

All to the dark

【ZPDF】

N1114E

【作者名】 グッピー

【あらすじ】

ある日今はやっている占いをしたコナン。その占いには100%当たるらしいが「ナンは信じなかった。そしてその占い通りの未来になってしまう…

Case 1 : What - if games

「ねえコナン君。これやってみない？」

「それって占い？」

「うん。未来予想つていう名前の占いなんだ。名前と生年月日と血液型を入力して占うのボタンを押すと…ホラ。」

「ホントだー。（えーっと蘭様、あなたの未来は99%あなたが好きな人と結ばれ幸せになるでしょう、かー。んじゃ残りの1%は何だ？）」

「ねえ「ナン君もやってみたら？」

「うん。…あ、出た。」

「なんて書いてあるの？」

「あなたはこれからも波乱万丈な人生を送るでしょう、だつて。」

「へー。すごいね。」

（真の姿に戻れる日もそう遠くないかも…ちなみに新一でやつたら…仲間を裏切り闇の世界に入るかもしません。愛する人を敵に回すかも…か。ま、オレは占いなんか信じねーけどな）

しかしその占いは当たってしまったのだった。

Case1:What-if games(後書き)

What-if games II 未来予想

「ピココリコ、ピココリコ

「ハーヴィ、久しぶりね。」

「ジョ、ジョディ先生！？」どうしたの？」

「コナン君、ついに組織の場所がわかつたわ。」

「ホント、ジョディ先生！」

「でもまだ組織に突入しないわよ。」

「わかつてるよ。作戦を立てなきゃいけないもんね。」

「そうよ。それよりも何でコナン君もあの組織と戦いたいのか教えてくれるかしり。」

「いいよ。ボクもいすれ言わなきゃいけないなって思つていたしね。でも教えるのはこの戦いが終わつてからだよ。」

決戦の日

とつとつこの日がやつてきた。コナン達とFBI達は組織のアジトの前にいた。

「…じゃあコナン君と姉ちゃんは例の薬のデータを取りていいわ。」

「ありがと。」

「じゃあ…」

「ちよい待ちいや、オレも行くで。」

「服部…オマエ何で…」

「オマエがあの探偵事務所にいなかつたから姉ちゃんに聞いたんや！…」

「そして博士を聞こ詰めてあらひこ吐かせたつてことだな。」

「よおわかってるやん。」

「わかってるのか、服部？もしかしたら死ぬかもしれないんだぞ？」

「そんぐらじ覚悟しとるわ。それに一人でも多い方がいいやひ？？」

「まーな…」

「じゃあ服部君は雑魚達をようしけね。」

「よつしや、任せとけ！！」

「よし、みんなアジトに突入するぞ…！」

「オオ…！」

「ナンは哀を守りながら薬のデータがある場所を探していた。
しかしコナン達を殺そうとしている人が次々と来る。」

「（ぐ、1人じや絶対どこかで灰原がやられちまう…）じうすればいいんだ…！」

コナンがそう思つたとき後ろで人が倒れてた。

「グハッ」

ドサッ

「え？」

「よつ、工藤。なかなか苦戦しているみたいやないか。」

「服部…オメーの持ち場はここじゃねーだろ…！」

「あつちがすんだからこつちに来たんや。それにライバルのオマエに死なれたら張り合えんようになつてオレが困るに決まつてるやんか。」

「そ、そうだな。」

「んじやあオレが攻める方に回るからオマエは出来る限りちつこ姉ちゃんを守れや」

「わかつてゐる。灰原、オレのそばから絶対離れるな…」

「え、ええ。」

パシュ

「うつ……」

「なんや」「藤、負傷したのか？情けないやつやなあ。」

「ちょっとかすっただけだ……」

「ふ~ん、まあええわ。」

「（）の一人なら組織を壊滅することができるわ……（）」

哀はそう思った。

評価、感想よろしくお願いします。

Case 3 : The worst development

「ナン達はずつと組織の下つ端達と戦つていた。しかし敵はどんどん増えて行くばかりである。

「（）のままやつたらこっちの方が圧倒的に不利や… どうすればえんや… そや… ！ 」 藤とちつさこ姉ちゃんを先に…（）

「ドン…！」

「わあ…！」

「きやつ…！」

「服部、何をするんだ！！」

「（）はオレに任せて！ 藤とちつこ姉ちゃんはあの薬を探しに行き…！」

「サンキューな、服部… 行くぞ、灰原」

「ええ。」

「おい、あの一人のガキを捕まえろ…！」

「待たんかい…！ オマエらの相手はこのオレや…！」

敵は平次がやつつけていなくなつた。
そしてそのとき電話がかかつてきた。

ピリリリリ、ピリリリリ

「ん？ 和葉からや。」

ピッ

「どないした、和…」

『平次！ 蘭ちゃんがさらわれてもうた… どないしよー。』

「えつ、姉ちゃんがさらわれた… ホンマか、それ？」

「うん。アタシな、蘭ちゃんと園子ちゃんと一緒に買い物に行つとつてん。でな、アタシと園子ちゃんがトイレに行つたときには、さらわれたみたいやねん。」

『和葉、姉ちゃんをさらつた人見てたか？』

「後ろ姿しか見てへんから、わからんけど金髪で長髪の人やつたよ。確か黒い車に乗つてたわ…」

「（黒い車つてまさか…）和葉、心配せんでええで。ちゃんと姉ちゃんを探したるから。でも一応警察には連絡しつけ。」

『わかつた。じやあお願ひな、平次。』

ピッ

「せや、工藤に連絡せな。」

ピパ・ポ・ピ・ピ・ボ・パ・ボ・ペ・ペ

フルルル、フルルル

「工藤早よ出ろ！！」

フルルル、フルルル

『お客様がお掛けになつた電話は只今電波が届いていないか電源が切られて…』

「何でこんな時に電源切つてんねん！…しゃーない、工藤を探しに行くか…！」

「んじやあ灰原はそつちの部屋を探してくれ。オレはそつちの部屋を探すから。」

「ええ。」

「何かあつたらこれ（探偵バッヂ）で連絡してくれよ。」

「わかつてゐるわよ。」

「じゃあまた後でな。」

一数分後

まだAPT-X4869は見つかっていなかつた。

「クソッ、ここにもねーのか…」
ガチャツ

「後はあそこの部屋だけだな…」
そしてコナンは扉を開けた。

「コナン君！！」

「蘭…姉ちゃん。なんで、ここ…？」

「俺が連れてきたんだ。」

「ジン！！」

「ごめんね、コナン君…。」

「蘭姉ちゃんが謝ることないよ…。」

「話はそこまでだ。」

「つ…」

「蘭…！」

ジンは蘭を氣絶させた。

「これからお前に一つ選択肢をやる。」

「選択肢？」

コナンはジンに聞いた。

Case 3: The worst development (後醍醐)

The worst development

II 最悪な展開

評価、感想よろしくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1114e/>

All to the dark

2010年10月10日05時37分発行